

情報を見極め 活用する力を

メディアリテラシーを育てるとは、どういふことでしょうか。

多くの先生が、教科で新聞を使っています。新聞に触れる、向き合う、まずは授業で使ってみるといふことも、ある段階では必要でしょう。

立命館大・柳澤伸司教授に聞く

男性は、かつて教えていた小学校で、強制連行の証言を紹介した記事を使って授業をした。しかし、朝日新聞が今になって記事を取り消しました。よかれと思って子どもに教えていた自分は何だったのか。重い責任を感じた、とい

う内容です。この投書から分かるように、新聞は完成されたものではありません。現在進行形の事象を扱っています。そのことに、教師はどれだけ自覚を持っているか。教師にもメディア教育、メディアリテラシーが必要で、複数紙、かつ丸ごと新聞を活用することを勧めています。

複数紙から多様な意見学べ

一方、教師は多忙であったり、学校の予算上の都合があったりで、複数紙を読むことは難しい。結果、政治的な問題は扱えない、扱いにくい状況になっています。本日は新聞を丸ごと使うのが理想です。新聞には政治や社会に関わる世の中さまざまな情報が載っています。自分の興味ある記事を探して、問題意識を深めたり発見したりするメディアです。教師が選んだ記事だけを使うことは、学校や新聞社にとっては安心安全かもしれない。しかし、それが本日の意味でメディアリテラシーを高めることにつながるでしょうか。

多忙な先生に新聞を使ってもらう工夫も必要そうです。

新聞社側も、事件取材は文字になるまでどんな経緯をたどっているのか、社説を書くかなどを明らかにしてはどうでしょうか。読んだときの理解の深さが変わります。政治報道も「政権中枢は」といった独特な表現をやめた方がいい。授業でますます使いにくい。読んで理解できるような記事であってほしいです。

メディアリテラシーを持つ子どもを育てることは、ジャーナリズムの視点を持った読者を育てることにつながります。そうした読者が新聞に意見を言う。厳しい声かもしれないが、それが新聞社にとっても自分たちを高めていくことになる。そうした関係が築けるNIEでありたいです。

。「これからのNIEは、メディアリテラシーを持つ子どもたちを育てたい」と話す。(長田真由美)

新聞と、これから

かし、そこでとどまっていたは、それ以上の力にならない。NIEの本来の目的は、民主主義社会を支える市民を育てることにあります。理想を言えば、多くの人がジャーナリストの池上彰さんのように、物事を判断できる力を持つ。その力を付けるのがリテラシーであり、そうした人を育てるのが学校教育。そこにNIEがどのように関わっていきけるか、だと思えます。新聞を授業で使うときに、どんなことに気を付けたいでしょうか。

新聞には新聞社ごとの傾向があります。当たり前のことではあるけれど、教師はどこまでそれを認識して、新聞を学習材として扱っているでしょうか。

ある新聞に、従軍慰安婦を巡る報道についての投書が載りました。投稿した元教師の



「新聞紙を丸ごと、複数紙使うのがNIEの理想型」と話す柳澤教授(京都市)

やなぎさわ・しんじ 立命館大産業社会学部教授。専門はジャーナリズム論。著書に「新聞教育の原点」など。日本NIE学会常任理事、企画委員長。

避難所から住民の声伝える

「首までの水に漬かりながら歩き続ける。水面に油の膜が漂い、ガソリン臭い...」二〇〇〇年九月、東海豪雨で陸

し不安な思いで過ごす住民らの声を伝えていきます。「危険だったが、現地では何が起きているのかを伝えたい一心だった」と記者は振り返ります。

狙うぞ特ダネ!?



新聞とわたし

「中日(子どもウィークリー)は、一号(二〇一一年八月)から読んでいます。毎週土曜日は起きたら新聞を読むのが習慣になりました。小学六年生の弟も読んでいます。こどもウィークリーは、漢字に仮名が振ってある



北野宏樹さん

こどもウィークリーも愛読

新聞を通して知らなかったこと、分からなかったことを新しく知ることができると嬉しいです。これからも、こどもウィークリーも朝刊も両方読みたいですね。(岐阜県大垣市東中二年)

ので小さい頃から読みやすかったです。最近、気になる記事は朝刊でも読むようにしています。九州北部の豪雨の記事も読みました。川が氾濫したり家に被害が出たりしている様子が写真でも紹介されていて被害がよく分かりました。

新聞を通して知らなかったこと、分からなかったことを新しく知ることができると嬉しいです。これからも、こどもウィークリーも朝刊も両方読みたいですね。(岐阜県大垣市東中二年)